

## 阿賀野川水系流域懇談会 下流部会（第2回） 議事要旨

開催日時：平成21年7月28日（火） 10:00～12:00

場 所：新潟市万代市民会館 3階 307・308会議室

議事次第：1. 開会

2. 挨拶

3. 出席者紹介

4. 議事

① 阿賀野川水系流域懇談会下流部会（第1回）の議事報告

② 阿賀野川水系河川整備計画の骨子案（下流部）について

③ その他

5. 閉会

○議事及び主な意見

（部会長）

- 資料－4の「整備計画目標」の【洪水への対応】に記述されている“...戦後最大流量に水系の上下流バランスを考慮した規模の洪水...”は一般にわかりにくいので、次の部会までに表現を工夫したほうがよい。

（部会長）

- 内水により排水機場自体が浸水してしまうことはないのか。

（A委員）

- 阿賀野川右岸部の農業排水施設の整備に係わったことがあるが、胡桃山排水機場が浸水することはないと思う。

（事務局）

- 胡桃山排水機場のポンプ設備等は2階に設置されており、浸水の心配はないと考えている。

（部会長）

- 地震と洪水が同時に来たときに水門や堰などが壊れて動かなくなると大変危険である。阿賀野川ではそういう心配のある施設はないか。

（事務局）

- 本川を横断するゲート付きの堰としては、農林水産省所管の阿賀野川頭首工だけである。

（部会長）

- 閉じなければならないものは確実に閉じる、開けなければならないものは確実に開けることができるよう、危機管理の工夫をしておかないといけない。
- 危機管理上では施設管理者が他省庁などと言っていない、その点については全

国レベルでの総点検が始まっている。大がかりな対策は必要なく、ゲート上部にフックを溶接してクレーンで吊れるような事例もあるので、阿賀野川でもこのような対策をしておくべきである。

(B委員)

- 資料－５の「工事に関する事項」で記述されている“砂礫河原への配慮”については、“樹林化抑制による砂礫河原の保全・回復”などと表現できないか。
- 資料－５の「維持管理に関する事項」で記述されている“河川空間の保全と利用”については、“河川の自然環境に配慮した空間利用”などの表現が適切ではないか。
- 工事に係わる樹木伐採と環境としての砂礫河原が、それぞれ別の項目で記述にされているが、両方を関連させて“樹木伐採は流下能力向上にも環境にも良い”というような記述にすれば良いと思う。

(事務局)

- ご意見として賜ります。

(C委員)

- 資料－４の「河川環境の整備と保全」に関する目標の中に、既定の河川環境管理基本計画があげられているが、他の２つの目標の表現と合っていない。

(D委員)

- 資料－４で記述されている“人と川のふれあいの場の整備”とは、「場所」と「場面」のどちらなのか。
- “水上ネットワークに関する整備”と記述されているが、現在は堰等で「舟運」が分断されているとしても、「文化」は堰等で分断されるものではない。
- 子供たちがもっと阿賀野川に親しみ、流域としてのつながりをもたせることで、グローバルな視点をもった子供を育てることが必要ではないか。

(事務局)

- “場”については「場所」と「場面」の両方を狙った整備を考えている。

(部会長)

- 全国的にイベント関係の予算が付きにくい状況のようだが、本当に国民にとって必要なものは必要と言うべきである。有意義な啓発活動を維持していくための仕組みづくりが必要ではないのか。

(事務局)

- 防災に関する啓発活動や環境教育の支援などを着実に行っていきたい。

(E委員)

- 資料－４の「工事に関する事項」では、「良好な水質の維持」と「工事による環境への影響の軽減等」が別々に記述してあるが、工事に伴う濁水のこと水質に含めるべきではないか。

(事務局)

- ご意見として賜ります。

(C委員)

- 資料－５の３９ページ「環境教育の支援」について、これまでの環境教育は水質と生物を知ることであったが、これからの環境教育は「環境と人がどう折り合いをつけていくか」という方向になると考えている。２０ページの「人と川のふれあいの場の整備」とは何をしていくのか。

(事務局)

- 環境護岸や水辺の楽校のように人が河川敷や水辺に近づきやすくなるような整備を考えている。

(C委員)

- 特別に整備された場所もありがたいが、普通に教員が子供達を連れて行って学習できる場所もあるとありがたい。

(F委員)

- 水防は人海戦術の面があるが、今の水防団員は地元の自由業者が少なくなり、緊急時の召集が難しくなっている。例えば緊急の際には水防団だけでなく、土建業の方にもお願いできる体制づくりが必要である。

(事務局)

- 水防団への支援とは異なりますが、管内の建設業者と災害時の協定を結び、災害時の応急復旧支援ができる体制等を確保している。

(部会長)

- 大災害時にはブロックや重機の奪い合いになるので、実際にどう動くか訓練を行うとともに、これについて記述してもらいたい。